

平成 29 年 3 月 14 日
国立情報学研究所
学術コンテンツ課

平成 28 年度 SPARC Japan 事業報告

(1) SPARC Japan セミナー

- ・ 企画 WG を組織し、3 回実施した。【資料 2-2-1】 【資料 2-2-2】
- ・ 企画終了後、ニュースレターを発行した。第 1 回セミナーの内容は第 30 号 (2016 年 11 月)、第 2 回セミナーは第 31 号 (2017 年 1 月) に掲載。第 3 回セミナーは第 32 号 (2017 年 4 月発行予定) に掲載予定。

(2) 海外動向調査

- ・ COAR (Confederation of Open Access Repositories) Annual Meeting 2016 (4 月 11-13 日, ウィーン大学) に NII 山地准教授を派遣した。
- ・ CRIS2016 (The 13th International Conference on Current Research Information Systems : 6 月 8-11 日, セントアンドリュース大学) に機関リポジトリ推進委員会協力員の林 豊氏 (九州大学) を派遣した。
- ・ OR2016 (The 11th Annual International Conference on Open Repositories : 6 月 13-16 日, ダブリン大学) に機関リポジトリ推進委員会協力員の林 豊氏 (九州大学) と NII 山地准教授を派遣し、発表を行った。
- ・ RDA (Research Data Alliance) 8th Plenary Meeting (9 月 15-17 日, デンバー) に NII 武田教授と NII 蔵川特任准教授を派遣した。
- ・ PIDapalooza (PID : Persistent ID, 11 月 9-10 日, レイキャビック) に NII 武田教授を派遣した。
- ・ IDF Strategic Meeting (1 月 17-19 日, バルセロナ) に NII 武田教授を派遣した。
- ・ Open Access に係る海外機関の調査 (1 月 25-27 日, レーゲンスブルク大学, バイエرن州立図書館, マックス・プランク) に大学図書館コンソーシアム連合 (JUSTICE) から砂押 久雄氏 (東京工業大学) と森嶋 桃子氏 (慶應義塾大学) を派遣した。【資料 4】

(3) arXiv.org 支援

- ・ 2015 年からコンソーシアム参加になった arXiv.org について, 日本の大学図書館からの会費を NII がとりまとめて支払った。また, 日本コンソーシアムの代表である引原京都大学図書館機構長が MAB (Member Advisory Board, 9 月 12-13 日) に出席した。【資料 5-2】

(4) SCOAP³ 支援

- ・ 2014 年から開始した SCOAP³ への日本の大学図書館からの拠出金を, NII がとりまとめて支払った。また, 安達委員長が Executive Meeting (10 月 14-15 日) に出席した。Executive

Meeting（3月20日）及び Governing Council Meeting（3月23-24日）に出席予定である。

（５）CLOCKSS 支援

- ・ CLOCKSS について、日本の大学図書館からの会費を NII がとりまとめて支払った。

（６）ORCID 支援

- ・ ORCID (Open Researcher and Contributor ID) について、NII 武田教授が Board Meeting（5月18-19日）に出席した。

（７）高エネルギー物理学分野の情報サービスに係る国際連携協定への対応

- ・ NII, KEK（高エネ研），CERN の3機関の国際連携協定に基づき、国立情報学研究所実務研修の一環として、以下を実施した。【資料5-3】
研修期間：平成28年3月11日（火）～平成29年3月2日（木）
所属機関・氏名：京都大学・大村 明美
研修場所：CERN（欧州原子核研究機構）
研修テーマ：物理学分野のデータベースに関するデータキュレーション

（８）意見交換会

- ・ Salvatore Mele 氏（CERN）を招へいし、SCOAP³に関する講演・意見交換会（12月7日，NII 12月8日，京都）を開催した。【資料5-1】
- ・ Dominic Tate 氏（エジンバラ大学）を京都大学が招へいしたので、併せてエジンバラ大学との研究データ管理等に関する意見交換会（12月21日，NII）をクローズドで行った。
- ・ Michael Witt 氏（パデュー大学）を京都大学が招へいしたので、併せてパデュー大学との研究データ管理に関する情報交換会（3月3日，NII）をクローズドで行った。

（９）論文公表実態調査

- ・ JUSTICE と連携し、我が国における論文公表の実態調査を継続して行った。【資料3】

（１０）SPARC Japan 年報の発行

- ・ 平成27年度の活動状況をまとめ、平成28年10月に平成27年度 SPARC Japan 年報日本語版を発行した。
- ・ 平成26年度 SPARC Japan 年報について、平成29年1月に英語版を発行した。